

令和5年度 鹿角市立八幡平中学校 学校評価書

<参考表示>

市の施策の基本方向	評価指標 (学校の実践課題)	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	1 主体的・協働的な学びを実現します ・「高まり」「広まり」「深まり」のある授業 ・「話し合いスタンダード@八中」の定着 ・「見方・考え方」を働かせた場面の明確化 2 基本的な学習習慣の形成と定着を目指します ・机上・ロッカーの整理整頓 ・返事・挨拶が定着するまで根気強い指導 ・あたたかい聴き方、やさしい話し方の継続	3	3	4	4	①なぜ学ぶかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを変える気概をもった人材を育てます。	1 ふるさと・キャリア教育を推進します ・八幡平ボランティアガイドの取組 ・キャリアアップ講座の開催 ・職場見学・体験学習の充実	3	4	4	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	1 ICT機器の活用を推進します ・情報モラル教室の実施 ・Chromebookの積極的な活用 ・授業でのICT機器の活用	4	4	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
基本方向4 豊かな心を育みます。	1 豊かな心を育む活動を工夫します ・TTによる道徳授業の実施 ・縦割り活動による諸活動の実施 ・生徒会活動の工夫 2 読書活動を推進します ・読書活動やビブリオバトルへの取組	3	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
基本方向5 健やかな体を育みます。	1 体力の増進に取り組みます ・保体授業の充実 (ウォーミングアップ、補強運動等の工夫) 2 望ましい生活習慣の確立を目指します ・ヘルスライフウィーク ・地域一斉のノーメディアの日の取組	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	1 不登校傾向の生徒への支援 ・QUを活用した集団の実態把握 ・学校生活アンケートの活用 ・SCや関係機関との連携	3	4	5	5	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	1 安全管理と安全指導に務めます ・施設設備の安全点検(毎月) ・自転車点検と交通安全指導(年1回) ・避難訓練の実施 ・長期休業の生活指導	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②進学の安全対策 ③学校の危機管理対策
基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	1 教職員の資質向上に務めます ・危機管理マニュアル・不祥事防止ファイルの活用 ・研修履歴カードを活用した計画的な研修の実施 ・「多忙化防止計画」の推進	3	4	5	5	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	1 CS制度、小中連携を推進します ・熟議を深めて、取組内容を具体化する R3「八幡平の子どもたちをどんな子どもに育てたいか」 R4「そのために、私たちは何ができるか」 ・小中連携しての地域素材研修の実施	3	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

## 基本方向1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	4月に実施した学力テストでは、全国平均と同等、秋田県や鹿角平均を若干下回る結果であった。	中間	3	中間	3	学力テストが県や市の平均を下回ったことは残念であるが、生徒同士の話し合い等、研修や研究により対策が講じられていることは評価できる。
年度末	2学期後半に行った学習状況調査では、1年生は英語で、2年はほとんどの教科で県平均を上回った。	年度末	4	年度末	4	親としてなかなか高評価を付けにくい項目であるが、学年ごとに成果は出ている。学習習慣づけは比較的できていると思われる。教職員の日々の指導のおかげと感謝している。
自己評価の概要と学校の改善策	<b>【中間評価】</b> ・「3つのまり」と「八中スタンダード」については、年度初めに全職員で共通理解をした。「授業を見合う会」や指定訪問で全職員で参観したり研修を行ったりし、共通理解することができた。また、実際に生徒から「分かりやすい」と評価のあった授業を参観し、コーディネート方法などについて研究部報で共通理解するようにしている。 ・「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」については、年度初めの学習集会で確認し、各教科・学級で継続して実践している。話し方について、返事や挨拶も含めて、もっと大きな声で聴き手を意識した話し方等ができるように指導していきたい。 ・机やロッカーの整理整頓は声かけをしないと整頓できない生徒がいるので、定期的に委員会での点検活動や学年部での声かけをしていきたい。					
	<b>【年度末評価・改善策】</b> ・「3つのまり」と「八中スタンダード」については、全職員で実践できた。市教委訪問の道徳の授業や、初任研の学活を職員で参観、またベテラン教師の手法などを共有し、意識を高めて自分の授業に生かすことができた。改善点は、「八中スタンダード」の「①まず自分で考える」の強化と、自信をもって自分の意見を言わせる手立てが必要という点である。 ・「聴き方」「話し方」については、各教科、各学級で指導していただき前期より良くなってきているので、これを継続していきたい。 ・「集中して学習に取り組むことができる環境作り」として、学習委員会と代議委員会とで教室内と廊下のロッカーや机の整理整頓の呼びかけと点検活動を継続していきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 主体的・協働的な学びを実現します ・「高まり」「広まり」「深まり」のある授業 ・「話し合いスタンダード@八中」の定着 ・「見方・考え方」を働かせた場面の明確化 2 基本的な学習習慣の形成と定着を目指します ・机上・ロッカーの整理整頓 ・返事・挨拶が定着するまで根強い指導 ・あたたかい聴き方、やさしい話し方の継続	・全職員での授業参観、研究会での意見交換 ・生徒から分かりやすいという声があった教科の授業を参観し、研究部報で共有 ・委員会での呼びかけと点検活動 ・各教科、各学年での指導の継続

### <資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価	
生1. 話し手を意識して、友達の話を考えてながら聴いている。	87.0	85.8	95.5	94.5
生2. 自分の言葉で、自分の思いや考えを伝えようとしている	84.6		92.5	
生5. 各教科等の授業や諸活動では、積極的に話し合ったり協働したりしている。	85.1		95.5	
教1-① あたたかい聴き方・やさしい話し方の推進	63.9	77.2	80	95
教1-② 3つの「まり」の学習過程	80.6		100	
教1-③ 「見方・考え方」を明確にした導入・展開・振り返り	77.8		100	
教1-④ 生徒同士が学び合う場面が中心の授業の推進	80.6		100	
教1-⑤ 学び合いを通じた深まりや広がりがある授業の推進	83.3		100	
3-① 協働的な学びを通じたコミュニケーション能力の向上	66.7	75.3	90	89.2
保1. お子さんは、授業が理解できている	72.5		69.2	
保2. お子さんは、家庭学習（宿題・自主学習）ができています	77.2		65.7	
保3. お子さんは、相手を認め、考えながら話を聞いている	77.9		92.7	
保4. お子さんは、自分の言葉で自分の思いや考えを伝えている	73.4		84.8	



3年 英語の授業



1年理科 解剖実験

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	八幡平ボランティアガイドの準備やキャリアアップ講座を通してふるさとについて学び、自分のキャリアについて考えられた。	中間	3	中間	4	地域について学び伝えることは非常に貴重な機会である。ただ愛着心や関心に対して教職員・保護者ともに低評価であることは、今後の取組に期待する。
年度末	八幡平ボランティアガイドや地域人材の活用を通して、地域への愛着や基礎的・汎用的能力が高まった。	年度末	4	年度末	4	取り組みほどにふるさとへの理解が深まっていると感じる。本校の先輩を招いたキャリアアップ教室を生かした取組も、非常に効果的と実感する。
自己評価の概要と学校の改善策	<b>【中間評価】</b> ・ボランティアガイドの実施に向けて八幡平地区の自然について学んだり、尾去沢中学校とガイド交流を行ったりしたことでふるさとの良さについて学ぶことができた。 ・キャリアアップ講座ではマナーやアンガーマネジメントについて学び、人間関係形成・社会形成能力を高める良い機会になった。					
	<b>【年度末評価・改善策】</b> ・ボランティアガイドを通して、ふるさとの良さを再認識した生徒が多かった。また、キャリアアップ講座で学んだことを生かし、コミュニケーション能力が高まったように感じられた。来年度はより生徒のコミュニケーション能力が高まるよう、生徒間の学び合いの充実など改善していきたい。 ・進路学習をより充実させられるよう、ICTの活用や講師を招いての進路学習等を行ってきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 ふるさと・キャリア教育を推進します ・八幡平ボランティアガイドの取組 ・キャリアアップ講座の開催 ・職場見学・体験学習の充実	・ボランティアガイドの準備、実践、振り返り ・キャリアアップ講座 ・職場見学・体験学習の充実 ・校外学習・修学旅行の計画、実践、振り返り

<資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価		
生3. ボランティアガイドやキャリアアップ講座などを通して、ふるさとへの愛着や興味・関心が高まっている。	78.3	79.9	86.5	88.8	84.0
生4. 進路学習や職場体験学習などを通して、自分の進路や将来について考えるようになってきた。	81.6		91		
教2-① ふるさとへの愛着心や自ら支える気概の育成	69.4	72.2	90	90	
教2-② 自分の将来や生き方に関する学び	75.0		90		
保6. お子さんは、ふるさとについて考えたり、興味や関心を持っているようである	67.4	68.1	71.2	73.1	
保7. お子さんは、将来の生き方や卒業後の進路について考えているようである	68.9		75		



キャリアアップ教室「アンガーマネジメント」



ボランティアガイド

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	各教科の特質に応じて、日常的に学習活動でICT機器を活用している。	中間	4	中間	4	ICTは有効に活用が図られている。今後も必須であると考えられるため、家庭とも連携しながらメディアリテラシーについて積極的に取り組んでほしい。
年度末	日常的な学習活動だけでなく、学校祭などの行事や文集の編集など多岐にわたる活用を通じて、情報活用能力が高まってきた。	年度末	4	年度末	4	メディアリテラシーは生徒のみならず大人でも問題になっている。引き続き指導を進めてほしい。生成AI等の有効活用も進めてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教室の実施（4/16）を通して、生徒に情報を利用する際のルールやマナー、自分自身で安全に利用するための判断の大切さについて指導をした。</li> <li>・ICT活用リーダー研修会や情報教育研修会を通じて、今年度の本校の課題や目標を設定し、取組等を決め、研修を実施（8/24）した。</li> <li>・授業でのChromebookの活用や電子黒板の活用などを呼びかけ、ICT機器の活用を促している。</li> </ul>
	<p>【年度末評価・改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を通じ、授業におけるChromebookの活用や電子黒板の活用は増え、生徒・教職員ともに意識的・有効的活用が見られた。</li> <li>・情報モラル教室、メディアリテラシーについての指導は行ってきたが、情報モラルに対する生徒一人一人の意識の差やメディアとの付き合い方での課題が散見されたので、引き続き、共通理解のもと指導・支援を行っていきたい。</li> </ul>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 ICT機器の活用を推進します <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教室の実施</li> <li>・Chromebookの積極的な活用</li> <li>・授業でのICT機器の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAでの情報モラル教室開催</li> <li>・タブレットを活用した健康観察の継続</li> <li>・授業におけるChromebookの活用</li> <li>・電子黒板、その他の機器活用</li> </ul>

<資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価	
生6. 授業で、Windows PC、Chromebook、インターネット等を適切に使うことができる。	90.7	92.3	100	100
生7. スマホ等のインターネットに接続できる機器は、音楽をしっかりと利用し、適切に使うことができる。	93.9		100	
教3-② ICTを活用した授業の推進	80.6	79.2	70	65
教3-③ ICTの適切、効果的な活用	77.8		60	
保10.お子さんは、コンピュータ、タブレットを操作できるようである	89.3	78.0	98.5	79.0
保16.お子さんは、テレビ、スマホ、ゲーム等のメディアを適切に利用している	66.7		59.4	
			83.2	81.3



ICTを活用した個別の学び



ICTを活用した協働的な学び

## 基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	ピブリオが、全校での取り組みから、国語科で出場希望者を募る形に変更となったが、朝読書の火・木に実施できるようになり、読書時間を確保できた。	中間	3	中間	4	各種行事や部活動等を通じて生徒同士の交流が図られている。今後も読書の機会を確保して豊かな心の醸成に努めてほしい。
年度末	朝読書の活動を通して読書に親しむ生徒が増えた。TTによる道徳授業は、生徒理解を深める機会になっている。	年度末	4	年度末	4	コロナの5類移行に伴い、学校での諸活動も戻りつつあることが喜ばしい。縦割り・異学年交流は八幡平の伝統的な特徴であり、今後も充実を図ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育祭や専門委員会活動、縦割り清掃班など、学年を超えた活動により、異年齢の生徒同士の繋がりを深めてきている。八幡平ボランティアガイドの活動を通して更に交流を深めさせたい。</li> <li>・ 道徳の授業では、TTでの授業が増えてきている。学年部を中心にTTの授業を計画的に実施できるように促したい。また、道徳の年間指導計画を随時確認し、教科書の観点項目で漏れが無いように注意したい。</li> <li>・ 図書室の蔵書を補完する試みとして、市図書館からの貸し出しを実施した。図書委員会の本の紹介も合わせて更に読書に親しむ体制を整えたい。</li> </ul>					
	<p>【年度末評価・改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TTによる授業が定着してきており、学年部全体で計画的に実施できるようになった。多くの視点で題材を検証することで内容を深めている。また、生徒理解を深める機会となっている。</li> <li>・ 清掃活動や八幡平ボランティアガイド活動など、機会を捉えて縦割りの活動を取り入れ、対人関係を広げられるようになってきた。</li> <li>・ 全校でスポーツ大会やレクリエーションを企画し、生徒同士が交流する場を設けることでコロナ禍のような孤立を防ぐ取り組みがなされている。</li> <li>・ 読書活動を毎週火・木曜日の朝に取り組むことができた。読書を愛好する生徒が増えてきている。ピブリオバトルは、国語科の授業で取り組んでいる。</li> </ul>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 豊かな心を育む活動を工夫します <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TTによる道徳授業の実施</li> <li>・ 縦割り活動による諸活動の実施</li> <li>・ 生徒会活動の工夫</li> </ul> 2 読書活動を推進します <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書活動やピブリオバトルへの取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校縦割りによる諸活動（清掃、生徒会活動等）</li> <li>・ 生徒会活動の充実</li> <li>・ 八小と連携した活動</li> <li>・ TTによる道徳の授業</li> <li>・ 朝読書、ピブリオ、読書フェスタ、市図書館と連携した学び</li> </ul>

<資料>						
アンケート内容	前期評価			後期評価		
生8. 全校縦割りでの活動、生徒会活動、学級での活動などは頑張っている。	89.1	83.1	76.1	100	83.8	87.0
生9. 道徳の授業では、様々な考えや生き方を聴いたりしながら、自分の考えや生き方を振り返っている。	85.5			92.5		
生10. 朝読書、ピブリオ、読書フェスタ等を通して、本に親しんでいる。	74.7			59		
教4-① 認め合う心や思いやりの育成	63.9	65.7	76.1	80	83.3	87.0
教4-② 道徳の授業の充実と道徳的判断力・心情・実践意欲や態度の育成	69.4			100		
教4-③ 朝読書やピブリオなど読書活動を通じた豊かな心の醸成	63.9			70		
教11. お子さんは、生命尊重や思いやりの気持ちが育ったりしている	81.7	79.6	76.1	97	93.8	87.0
保12. お子さんは、ルールやマナーを守るなど社会規範が身についている	79.7			94.3		
保13. お子さんはあいさつや年齢相応の礼儀が身についている	77.3			90		



縦割り班でのボランティアガイド



TTによる道徳授業

## 基本方向5 「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	運動能力は特に柔軟性に課題があり、自ら運動しようとする生徒は少ない。 また、メディア利用と望ましい生活習慣が大きな課題である。	中間	3	中間	3	望ましい生活習慣の確立が教職員・保護者ともに低いのは、特にメディアリテラシーが関わっていると思われる。授業やPTA等の機会を活用し、今後もこどもたちの育みを支えてほしい。
年度末	授業以外での体力作りの時間を確保するのが難しかった。しかし、各部活動で基礎体力作りに励んでいるので継続してほしい。メディア（スマホ、タブレット、ゲーム）については、数値は多少上がってはいるものの、年度初めから同じ生徒が長時間利用している。	年度末	3	年度末	3	食事や睡眠等、望ましい生活習慣の獲得については、家庭での関わりが非常に大きいと感じる。外的要因も含め、引き続き家庭や地域と連携しながら指導の充実を図ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<b>【中間評価】</b> ・年度当初に比べると、全体的に体力や運動能力は向上していると思われる。ただし、柔軟性に未だ課題があり、けがの要因の一つである。一年を通して部活動を活用し柔軟性を中心とした運動能力の向上を図る。また、吹奏楽部もこれまで同様に体力づくりを取り入れた練習を行っている。 ・メディアの適切な利用は、情報モラル教室や集会や各教科の授業等で学んでいる。しかし、家庭でのルール設定が5割程度で、深夜までゲームをしていたり、休日一日7時間以上利用している生徒は15名、平日6時間以上利用している生徒は1年生3名もいる。保護者の管理体制に課題ある。健康への影響も含めて情報提供は行っているが、それ以上のことができない。					
	<b>【年度末評価・改善策】</b> ・体力向上対策として、3学期から1回第2水曜日の放課後に、体育環境委員主催で15分間の「運動タイム」を設定したいと考えている。内容は体育環境委員で考えるが、ランニング、縄跳び、サーキット、エアロビ等を考えている。 ・メディア利用については、保健給食委員会と協力し「ノーメディアの日」のメディアのくくりを「スマホ、タブレット、ゲーム」に限定し、選択コースの見直しをしてみたい。また、家族の時間を大切に取る取組も考えていきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 体力の増進に取り組みます ・保体授業の充実 （ウォーミングアップ、補強運動等の工夫）  2 望ましい生活習慣の確立を目指します ・ヘルスライフウィーク	・ヘルスライフウィーク（年4回） ・はちまんたいノーメディアの日チャレンジカード（毎月第1木曜日） ・保健集会、学校保健委員会の充実

<資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価	
生11. 体育の授業や部活動を通して、健康を意識し丈夫な体づくりに務めている。	86.9	84.0	94	90.9
生12. スマホ等のメディア機器は長時間利用せず、規則正しい生活を心がけている。	75.0		78.7	
生13. ルールを守り、交通安全やけがの防止を心がけた生活をしている。	90.1		100	
教5-① 体育の授業や部活動等を通しての体力向上	75.0	65.3	80	70
教5-② ヘルスライフウィーク等による望ましい生活習慣の確立	55.6		60	
保14. お子さんは、健康で適度な体力が身についている	80.9	72.2	88.5	77.7
保15. お子さんは、休日も含めて規則正しい生活をしている	69.0		68.5	
保16. お子さんは、テレビ、スマホ、ゲーム等のメディアを適切に利用している	66.7		59.4	



体育祭



チャレンジデー

## 基本方向6「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	SNSによるいじめがあった。スマホ利用については情報モラル教室や学級指導、通信等で指導しているが難しい問題である。	中間	3	中間	4	SNSトラブルがあったのは残念であるが、実態把握と個別対応、連携はとられていると思う。諸先生方の日々の取組や指導に感謝したい。
年度末	1年の中で最大の行事である学校祭や合唱フェスティバルを終えて、どの学年もひとまり大きく成長した。しかし、相手の立場や気持ちを考え、お互いが助け合い励まし合うことができなかった生徒もいるのが現状である。	年度末	5	年度末	5	不登校傾向の生徒は存在するものの、SCやスクログ・QU・SOSシートの活用など、生徒とつながる様々な機会やツールが活用され、成果が出ていると思う。

自己評価の概要と学校の改善策	<b>【中間評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校、不登校傾向生徒の対応は、家庭、関係機関等を連携しながら進めている。</li> <li>・通常学級で発達障害傾向や学習に遅れが見られる生徒には学習支援員を配置している。該当するすべての生徒に毎時間配置はできないが、有効に活用している。</li> <li>・特別支援学級の指導は全校体制で行うことができている。</li> <li>・hypre-QUと学級力アンケートを実施し、個人、学級への支援について話し合い実践している。</li> <li>・SCとのカウンセリングを継続している生徒もいる。該当職員との情報交換も行われている。</li> </ul>
	<b>【年度末評価・改善策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の三者面談の実施が有効的だった。また、学級担任によるスクログでのきめ細やかな指導も良かった。</li> <li>・相手の立場や気持ちを考え、お互いが助け合い励まし合うこと、安心して過ごせる学級づくりのために、LINEの使い方、言葉の使い方、選び方を考えさせていきたい。</li> </ul>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 不登校傾向の生徒への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・QUを活用した集団の実態把握</li> <li>・学校生活アンケートの活用</li> <li>・SCや関係機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SOSシートによるいじめや不登校の未然防止</li> <li>・不登校生徒の居場所づくりと学級復帰に向けた支援</li> <li>・スクールカウンセラーや関係機関の活用</li> </ul>

### <資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価	
<small>注14. あなたにとって学校は、いじめやトラブルがなく学校は安心して楽しく過ごすことのできる場所ですか。</small>	79.2	79.2	92.5	92.5
教6-① 不登校やいじめの未然防止や早期発見	69.4	75.6	90	93.1
教6-② 不登校生徒の居場所作りや学級復帰に向けた支援	72.2		80	
教6-③ スクールカウンセラーやこもれび等関係機関の活用や連携	77.8		80	
教6-④ 学習支援員と連携した特別な支援を要する生徒への支援	80.6		100	
教6-⑤ 全校体制での特別支援教育	77.8		100	
保17.お子さんは、学校の友達と仲良く過ごしている	83.1	83.1	96.9	96.9



小中連携会議



新入生歓迎会

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	安全点検や交通安全指導等を通して、安全・安心な環境づくりに取り組むことができた。	中間	4	中間	4	様々な手法を駆使しながら十分な対策が講じられている。幼保小中での訓練等、八幡平ならではの実態に即した内容も引き続き工夫して欲しい。
年度末	安全点検や避難訓練を通して、安全・安心な環境づくりに取り組み、生徒の防災意識を高めることができた。	年度末	4	年度末	4	安全対策と指導、大きな事故もなく過ごすことができてよかったと思う。本地域ならではの熊対策についても、今後も「生徒の安全」を最優先に取り組んでほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<b>【中間評価】</b> ・全職員で毎月管理個所の安全点検を実施した。 ・年度初めに自転車点検や交通安全教室（4/11）を行った。1学期中に自転車通学中にケガをした生徒がいたため、今後も定期的に安全指導や下校指導を行っていく。					
	<b>【年度末評価・改善策】</b> ・交通安全教室や避難訓練を通して生徒の安全指導を行い、大きな事故なく過ごすことができたので、今後も継続していく。また、事故の未然防止のために、登下校時の送迎の仕方についても検討していく。 ・より安全・安心・良質な学び場づくりのために、安全点検後、改善が必要な箇所の対応を速やかに行うことができるようにしていく。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1 安全管理と安全指導に務めます ・施設設備の安全点検（毎月） ・自転車点検と交通安全指導（年1回） ・避難訓練の実施 ・長期休業の生活指導	・危機管理マニュアルを活用した事故の未然防止 ・交通安全教室 ・学校内外での生活における安全指導 ・避難訓練の充実（河川氾濫時の垂直避難の訓練等）

<資料>

アンケート内容	前期評価			後期評価		
生13. ルールを守り、交通安全やけがの防止を心がけた生活をしている。	90.1	90.1	83.2	100	100	89.5
教7-① 生徒の事故の未然防止に対する意識向上や行動規範の育成	72.2	79.2		60	70	
教7-② 日常点検、定期点検による安心安全な教育環境の保全	86.1			80		
保18.お子さんは、交通安全やケガの防止を心がけた生活をしている	84.4	84.4		98.5	98.5	



交通安全教室



水害対策避難訓練



## 基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	目指す教師像「あかるく・あたたかく・あきらめない教師」の実現に向け、個々に目標を設定して取り組んでいる。	中間	3	中間	4	教職員数の減少や業務過多が問題となっているが、教職員相互の「授業を見合う会」の実施やICT支援員の活用など、目指すべき方向性に進んでいると思う。
年度末	個々に設定した目標の達成に向け、学習指導・生徒指導・校務分掌遂行等に取り組んでいる。	年度末	5	年度末	5	教職員同士の親密さやチームワークがレベルアップにつながっていると感じる。勤怠管理システムを有効活用して働き方改革を実践していることも非常にありがたく感じる。

自己評価の概要と学校の改善策	<p><b>【中間評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が個々のキャリアステージに応じた目標を設定して日々の業務に取り組んでいる。特に中堅教員については、校務分掌を通じた学校経営への参画意識高揚を目指している。またベテランには、業務遂行を通してこれまで自らが培った様々なノウハウを後輩へ伝えることも重要な役割と捉えている。</li> <li>・業務改善についてはまだまだ改善の余地がある。特に部活動の複数担当制や部活動指導員の有効活用など、これまで以上に改善を進めていきたい。また、文科省発行の実践事例集を参考に、ICT支援員の協力を得ながら、ICTを活用した業務改善も進めていきたい。</li> </ul>
	<p><b>【年度末評価・改善策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会や指導部会等が、生徒理解及び業務遂行に関する情報交換のみならず、ベテランから中堅及び若手へのアドバイスの場ともなっている。</li> <li>・勤怠管理システムも活用しながら個々の時間管理意識を高めることができている。また部活動のオンオフゾーンを意識することが、業務改善に役立っている。</li> <li>・支援員の力を借りながら、業務の効率化にむけたICT機器の有効活用が図られている。</li> </ul>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
<p>1 教職員の資質向上に努めます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル・不祥事防止マニュアルの活用</li> <li>・研修履歴カードを活用した計画的な研修の実施</li> <li>・「多忙化防止計画」の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による「授業を見合う会」の実施と全体共有</li> <li>・各種授業研究会に向けての指導案検討会</li> <li>・鹿角中学校授業研究会への参加と情報共有</li> <li>・効果的な取組をしている授業の参観と全体共有</li> </ul>

<資料>

アンケート内容	前期評価		後期評価			
教8-① 人事評価目標を基にした能力開発	72.2	71.3	71.3	100	96.7	96.7
教8-② 全校体制での教科研究を通じた指導力の向上	77.8			100		
教8-③ 業務改善計画に基づいた働き方改革	63.9			90		





地区研修会



教育実習

## 基本方向9「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント	
年度初め	5/26に第1回学校運営協議会を開催して学校経営グランドデザインを説明して委員からの承認を得た。5/30に地区研修会を開催して3Pについて確認した。	中間	3	中間	4	既に地域密着型の土台の上に現在の子どもたちがいると思う。地域や保護者も巻き込みながら、八幡平の将来や可能性について考える機会の充実を図ってほしい。	
年度末	10/7・8にボランティアガイドを実施、今年度のガイド数は342件。 10/21には八中祭開催、土曜・半日開催にむけて準備を進めていく。	年度末	4	年度末	4	学校祭でのステージ発表は、生徒の主体性が感じられる内容だった。今後時間を短縮しても生徒が成就感を感じられるように工夫してほしい。教職員が地域素材を学ぶ研修の機会確保もありがたいと感じた。	
自己評価の概要と学校の改善策	<p><b>【中間評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/27(木)、「北教育事務所社会教育関係職員学校訪問」を開催した。</li> <li>・午前中に、地域素材に関する教職員研修として「永田ホープフルファーム」の見学を行った。</li> <li>・10:00より、「第2回学校運営協議会」を開催して、熟議を行った。テーマは、「八幡平の児童生徒の健全育成に地域の力(人・資源)をどう活用するか。」</li> </ul> <p>→八幡平小学校・八幡平中学校の「ふるさと・キャリア教育プロジェクト」について、小中全職員で共通理解して実践していくためのよい機会となった。</p> <p><b>【年度末評価・改善策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアガイドは、1日目の雨天に対して時間短縮で対応した。活動を通して生徒の成長が感じられたとの反省が多く、活動のねらいが十分に達成された。</li> <li>・今年度の八中祭は、金曜準備、土曜日開催で実施した。準備を通して学級内の人間関係により影響が感じられた。次年度以降、半日開催で計画していく予定である。</li> <li>・11/13に、「はちまんたい教育の日」役員会を開催して、本来のサイクルにもどして令和6年度に実施すること、11月2日又は9日に開催することが決定した。</li> </ul>						
評価指標(学校の実践課題)		具体的な取組内容					
1 CS制度、小中連携を推進します <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟議を深めて、取組内容を具体化する</li> </ul> R3「八幡平の子どもたちをどんな子どもに育てたいか」 R4「そのために、私たちは何ができるか」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携しての地域素材研修の実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の立ち上げと運営</li> <li>・P6会議と3P会議による小中連携教育の推進</li> <li>・「はちまんたい教育の日」の実施</li> <li>・「はちまんたい運動」の推進</li> <li>・地域人材や地域素材の積極的な活用</li> </ul>					
<資料>							
アンケート内容		前期評価			後期評価		
教9-① CS制度の理解と地域の特色を生かした教育の推進		66.7	70.4	72.4	90	86.7	88.3
教9-② 家庭と連携した生徒の指導		72.2			80		
教9-③ 小中連携を通じた豊かな教育活動の推進		72.2	90				
保19.学校報、学年だより、お子さんとの会話などを通して学校の様子がわかる		77.8	75.5	72.4	89.5	90.0	
保20.学校は、保護者との連携がよくなされている		73.3			90.4		
							
永田ホープフルファーム見学				熟議			